

報告① 新駅附帯施設の検討状況について

1 第4回協議会（令和2年3月24日開催）での協議概要

新駅附帯施設について、
非営利施設（観光案内、情報発信）及びコインロッカーのみとした試案を提示



【主な意見】

- ・ 駅利用者の立場になって考えると、駅舎内に物販施設や飲食施設が必要ではないか。
- ・ 観光案内所の設置について、どういった形が良いのか今後検討していく必要がある。
- ・ コンコースの活用やデジタルサイネージの設置場所を工夫するなどして、限られた駅舎内スペースの有効利用を検討すべき。

2 検討状況（中間報告）

- 新駅附帯施設として物販施設の導入の可能性を検討するため、コンビニ事業者（A社、B社）に聞き取りを依頼した。
- そのうち、A社より聞き取りを実施（R2.7.15）。

【概要】

- ・ 道内では、コンビニの商圈人口は1,800人と言われている。（他社も含めて）
- ・ 施設内に設置すると地元の利用客はあまりいない。
- ・ 通常の店舗サイズは200㎡（バックヤード込み）だが、サイズは対応可能。（地下駅に出店した事例では最小11㎡。）
- ・ 利便施設誘導ゾーン（新駅から道道を挟んだ反対側）への出店可能性は低い。（駅舎から離れてしまうことで乗降客の利用がなくなってしまう。）
- ・ 出店の可否は直営の場合は本部がリスクを見てシビアに計算して決める。
- ・ イニシャルコスト、ランニングコストからの積み上げで必要な売上額を算出して採算が取れるかどうかを判断することになると思う。
- ・ 現時点では、駅のようにオープンな施設での無人販売は難しいと思う。

- その後、A社より電話連絡があった。（R2.7.27）

【概要】

- ・ 別件で社内トップと打合せする機会があり、その際に情報として新駅の話をした。
- ・ 「成立するのは、なかなか難しいのではないか。」とのこと。
- ・ 現時点の当社の印象としては、このようなことなので、一応お伝えする。

- B社については聞き取りに応じてもらえなかった。（R2.7月）

➔ 現時点では、有人物販施設の出店は難しいと考えざるを得ない。

3 今後について

- 物販施設や飲食施設等の導入に関して、10年後を見据えた無人販売等の可能性について調査研究を進める。
- 駅舎内のレイアウトに関して、JR北海道、鉄道・運輸機構、小樽市の三者打合せにて引き続き協議を進める。
- 上記の結果について、協議会に適宜報告する。